

単元 小説を読んで自分の考えを持つ

『少年の日の思い出』の登場人物を「どう思いますか」

一年 組 氏名

学習課題

- A 『少年の日の思い出』の登場人物について自分の考えを、
 B 描写から分かる人物の考え方と自分の考えを比較し、
 C 投書への返書のように書く。
 ・・・・【何を学ぶか】
 ・・・・【どう考えるか】
 ・・・・【何をするか】

【学習計画】 6時間

1 単元の見通しを持つ

1時間目

- ▽投書欄「どう思いますか」を読み、新聞の投書、返書について知る。
 ▽「朗読選抜チーム」「語彙力アップチーム」に分かれ、「少年の日の思い出」を深く読む準備をする。

2 『少年の日の思い出』を読む

2時間目

- ▽朗読選抜チームの朗読を聞く。
 ▽登場人物の人物像や関係を図で表す。

3 投書モデルを読み、登場人物について自分の考えをもつ

- ▽『少年の日の思い出』の登場人物を「どう思いますか」のもとになる三つの投書モデルを読む。

4 自分が選んだ投書へ返書を書く。(五〇〇字程度)

3時間目

- ▽返書に使用したい語彙を集める。
 (『少年の日の思い出』・投書モデル・語彙力アップシート・国語辞典)

5 返書を書き換える

4・5時間目

- ▽自分の考えを表すための語句を適切に選んで返書を書き換える。
 ▽「一分で伝える発表会」の準備をする。
 (自分の考えと根拠、自分の考えを表す語句について説明する)

6 まとめ

6時間目

- ▽「一分で伝える発表会」
 ▽単元の学習を振り返る。

もうひとつの学習の窓 描写から分かる人物の考え方と自分の考えを比較する

登場人物の行動や発言に着目し、自分と比べて小説を読むことで、自分の考えをもちやすくなります。描写から分かる人物の考え方と自分の考えを比べるために、次の三つのポイントをもとにして文章を読みましょう。

【自分の考えと比べるポイント】

- ① ！ 共感・賛成 「そうそう！」「私も同じ考えですー！」
 ② △ 反論・納得がいかない・違和感 「ちよっと待って」「私の考えは違います」
 ③ ？ 疑問 「なぜ？」「どうして？」

単元 小説を読んで自分の考えを持つ

『少年の日の思い出』の登場人物を「どう思いますか」

学習プリント

新聞の投書・返書について知ろう

名前

どうしよ
投書

〇〇新聞

新聞投書



A large speech bubble with a blue outline and five vertical dashed lines inside, intended for writing a letter or comment.

投書に対する返書

朗読選抜チーム

ー学習の流れー（□にチェックを入れて流れを確認する）

- 1 チームのリーダーを決める。
※九人で一つの作品の朗読をつくり上げる。
- 2 朗読する場面を決める。（場面1〜4）
※二人で一つの場面を担当する。（場面3は三人）
- 3 場面ごとに朗読の分担を決める。
- 4 場面ごと、または個人で朗読の練習をする。
※「朗読の極意」を参考にする。
- 5 意味が分からない言葉があれば、国語辞典で意味を調べる。
※ふせんにメモをして「ちょっと難しい語句集めシート」にはる。
- 6 必要であれば、朗読CDを聴いて参考にする。
- 7 リーダーに「ちょっと難しい語句集めシート」を提出する。

朗読の極意

く声く

く表現く

- 一 背筋を伸ばして、姿勢よく
- 一 お腹から声を出し、言葉をはっきりと
- く表現く
- 一 内容のまとまりを考え、間を取る
- 一 「接続詞」に緩急・声の高さなど変化をつける
- 一 抑揚をつけて強調したい言葉を際立たせる
- 一 力を入れすぎない

極意

（芸の道や武道などの）
もっとも奥深い境地

語彙力アップチーム

ー学習の流れー（□にチェックを入れて流れを確認する）

- 1 チームのリーダーを決める。（三人グループ）
- 2 リーダーが決まったら、「語彙力アップシート」を前の机に取りに行く。

※三人で二つ語句を担当する。「語彙力アップシート」を二枚選ぶ。

- 3 文章中に使われている語句の意味を調べる。
- 4 似ている言葉をできるだけたくさん集める。
- 5 「言葉の小劇場」に取り組む。（一〇〇字）
※一つの言葉で二つ書けたら◎
- 6 リーダーは「語彙力アップシート」を提出する。

語彙力アップの極意

一言葉の意味を知る・言葉を増やす・・・類義語

・言葉の意味を調べる

・似ている言葉をたくさん集める

一 使える言葉を増やす・・・言葉の小劇場

・言葉から想像を広げて文章を作る

・言葉の意味を理解し、文脈の中で正しく言葉を使う

単元 小説を読んで自分の考えを持とう

『少年の日の思い出』の登場人物を「どう思いますか」

ちょっと難しい語句集めシート1

場面① P202～P204（10行目）

[担当：

]

単元 小説を読んで自分の考えを持とう

『少年の日の思い出』の登場人物を「どう思いますか」

ちょっと難しい語句集めシート2

場面② P204（11行目）～P207（12行目）

[担当 :

]

単元 小説を読んで自分の考えを持とう

『少年の日の思い出』の登場人物を「どう思いますか」

ちょっと難しい語句集めシート3

場面③ P207（13行目）～P211（3行目）

[担当 :

]

単元 小説を読んで自分の考えを持とう

『少年の日の思い出』の登場人物を「どう思いますか」

ちょっと難しい語句集めシート4

場面④ P211（3行目）～P214

〔担当：

〕

語彙力アップシート

「担当」

1

「語句の意味」

■似ている言葉をたくさん集めよう

類義語

[illegible]

■短い物語を作ろう

言葉の小劇場

名前

U

[illegible]

名前

U

[illegible]

【自己評価表】

－ 「少年の日の思い出」の登場人物を「どう思いますか」－

	C	B	A
ごい語彙 (言語についての知識・理解・技能)	普段使っている <u>思いつきの語彙</u> を使っている。	今、自分が知っている語彙を <u>吟味して</u> （くわしく調べて）使っている。	新規の語彙を探し、 <u>吟味して</u> （くわしく調べて）使っている。

Aへの道

「語彙力アップシート」の類義語の中から、自分の考えと関連する語句を見付け、さらにその語句の意味や類義語を調べて自分の考えを表す新規の語彙を探してみよう。

	C	B	A
自分の考えと根拠 (読む力)	自分の考えの <u>根拠となる描写</u> を用いていない。 自分の考えとその <u>根拠が適切に</u> 関係付けられていない。	自分の考えとその <u>根拠となる描写</u> を適切に <u>関係付けて</u> 読んでいる。	自分の考えとその <u>根拠となる描写</u> を複数の資料（情報）から <u>適切に</u> 関係付けて読んでいる。

Aへの道

「復習の資料（情報）を関係付ける」とは・・・
 ○「場面」と「場面」を関係付けて自分の考えと根拠を示すこと
 ○「少年の日の思い出」と「投書モデル」を関係付けて自分の考えと根拠を示すこと

A ちやうを粉々に押しつぶした行動の意味

中学生（佐賀県 13 歳）

「少年の日の思い出」は衝撃的な結末でした。ちやう集めに夢中になっていた「僕」が、自分が収集していた大事なちやうを暗闇の中で一つ一つ指で粉々に押しつぶしたのです。ご飯を食べることも忘れ、他のことをすつぽかすほど熱中して、何年もかけて集めたちやうだったはずです。

この場面から私が感じたのは「絶望」です。「僕」は、自分が犯した罪をエーミールに告白したのですが、全く話を聞いてもらえず、どうしようもない思いを抱えて家に戻りました。そして、「僕」は自分が長い間集めてきた大事なちやうを粉々に

することで、すべてを終わらせたかったのではないかと考えました。その行動は、嫌なことから目をそらし、逃げているように思えてなりません。自分のちやうを粉々にしてもエーミールのちやうは元通りにはならないし、罪は消せません。そして、そんなことをしてもエーミールはきつと許さないに決まっています。許してもらうためなら、エーミールの前から逃げずに、何度も謝るしかありません。

何度読み返しても、「僕」がちやうを粉々に押しつぶしたことに納得がいきません。この結末がどうしてもすっきりしないのです。

B 冷静だったエーミールの本心は

中学生（佐賀県 12 歳）

「少年の日の思い出」は、「僕」と「エーミール」の二人の少年が対照的に描かれている。この二人は、ちやうを盗んだ「僕」と、盗まれた「エーミール」という関係だが、文章を読むとエーミールは冷たく嫌な人物のように感じられる。

エーミールは何も悪いことをしていないはずだ。それなのに、「非の打ちどころがない悪徳をもっていた」、「子供としては二倍も気味悪い性質」、「こっぴどい批評家」などと表現されている。

それに対して、「僕」はエーミールの部屋へ勝手に入ってち

やうを盗み、わざとではないが、そのちやうをだいなしにしました。そして、謝罪するどころか、「それは僕がやったのだ、と言い、詳しく話し、説明しようと試みた」とある。これでは言い訳をしようとしているとしか思えない。エーミールは「冷淡に構え、依然僕をただ軽蔑的に見つめていた」とある。僕なら絶対に文句を言うし、怒り狂うかもしれない。

やつと手に入れた珍しい大事なちやうをだいなしにされたエーミールが気の毒だ。冷静に見えるエーミールの態度の裏には、一体どのような気持ちが隠されているのか気になって仕方がない。

C 「客」はなぜ今になって告白したのか

中学生（佐賀県 13 歳）

「少年の日の思い出」は、私が今までに読んだ小説の中で一番暗い内容でした。作者はこの作品で何を伝えたかったのだろうかと疑問に思いました。

二人の男が話をしている初めの場面は、「不透明な青い夜の色」、「薄暗がり」、「闇」などの表現が続き、暗い印象を受けました。この場面に登場する「私」と「客」は四〇代くらい的人物だと予想しました。「客」は「私」に子どもの頃の恥ずかしい思い出を告白しようとするのですが、その男は「自分でその思い出をけがしてしまった」「話すのも恥ずかしいことだが」と言います。誰だって自分の過ちや失敗は隠したいと思うのは

当然です。それなら一生黙ったままでもよかったはずです。この時、「客」は、胸の奥底にしまいこんでいた苦い思い出を初めて誰かに語ったと読み取りました。

この「客」の告白は釈然としないものがあります。「客」が自分の思い出を話し終えた場面は描かれていないので、その後、二人がどのような話をしたのかは分かりません。だから、「客」の気持ちは想像するかもしれませんが。人は歳をとると過去の自分との向き合い方に気持ちの変化があるのでしょうか。私にはよく分かりません。何のための告白だったのか。「客」は過去の苦い思い出を誰かに話すことで心の重荷を下ろし、自分が楽になりたかったのでしょうか思えてなりません。